

こども・若者総合調査
報告書

令和8年3月

こども家庭庁長官官房参事官（総合政策担当）

第1部 調査の概要

第1章 調査設計

1. 調査目的	1
2. 調査仕様	1
(1) 調査地域	1
(2) 調査対象者と標本の大きさ	1
(3) 調査事項	1
(4) 調査方法	1
(5) 調査期間	1
(6) サンプルング方法	1
(7) 有効回収数	2
(8) 調査委託機関	2
(9) 企画分析会議	3
(10) 本報告書を読む際の留意点	3

第2章 対象者の基本属性

1. 10歳～14歳対象調査	5
(1) 性別 (F 1)	5
(2) 年齢 (F 2)	5
(3) 同居者 (F 3)	5
(4) 在学校 (F 4)	5
2. 15歳～39歳対象調査	6
(1) 性別 (F 1)	6
(2) 年齢 (F 2)	6
(3) 婚姻状況 (F 3)	6
(4) 同居者 (F 4)	6
(5) 主に生計を支えている人 (F 5 (1))	6
(6) 主に生計を支えている人の主な収入源 (F 5 (2))	7
(7) 暮らし向き (F 6)	7
(8) 最終学歴 (F 7)	7
(9) 卒業状況 (F 8)	7
(10) 現在の仕事 (F 9)	7
(11) 就業経験 (F 10)	7

第2部 調査結果の概要 I

第1章 10歳～14歳対象調査

1. 人生観・幸福感・居場所等	9
(1) 自己認識 (問1-1、問1-2)	9
(2) 今の幸福感 (問2)	13
(3) 生活満足度 (問3)	14
(4) 居場所 (問4)	15
2. 人とのつながり	20
(1) 孤独感 (間接質問) (問5)	20
(2) 孤独感 (直接質問) (問6)	22

3. 他者との関わり方	23
(1) 家族・親族との関わり方 (問7)	23
(2) 学校で出会った友人との関わり方 (問8)	26
(3) 地域の人との関わり方 (問9)	28
(4) インターネット上での他者との関わり方 (問10)	30
(5) 他者との付き合い方 (問11)	32
4. 社会参加	34
(1) 社会貢献への意欲 (問12)	34
5. 将来像	35
(1) 将来への希望 (問13)	35
(2) 将来のイメージ (問14)	36
6. 自身や周囲の状況	43
(1) 自由時間の充足状況 (問15)	43
(2) 心と身体の状態 (問16)	44
(3) 個性・多様性・意見を尊重してくれる人の有無 (問17-1)	46
(4) 個性・多様性・意見を尊重してくれる人 (問17-2)	50
(5) 周囲の大人の様子 (問18)	52
7. ものごとがうまくいかず落ち込んだ経験	53
(1) 落ち込んだ経験 (問19)	53
(2) 落ち込んだ状態から元に戻った経験 (問20)	54
(3) 落ち込んだ状態から元に戻ったきっかけ (問21)	55
8. 相談・支援	57
(1) 落ち込んだときの相談相手 (問22)	57
(2) 相談しようと思わない理由 (問23)	59
(3) 相談場所の認知度 (問24)	61

第2章 15歳～39歳対象調査

1. 人生観・幸福感・居場所等	63
(1) 自己認識 (問1-1、問1-2)	63
(2) 今の幸福感 (問2)	69
(3) 生活満足度 (問3)	70
(4) 居場所 (問4)	71
2. 人とのつながり	75
(1) 孤独感 (間接質問) (問5)	75
(2) 孤独感 (直接質問) (問6)	77
3. 他者との関わり方	78
(1) 家族・親族との関わり方 (問7)	78
(2) 学校で出会った友人との関わり方 (問8)	82
(3) 職場・アルバイト関係の人との関わり方 (問9)	86
(4) 地域の人との関わり方 (問10)	90
(5) インターネット上での他者との関わり方 (問11)	94
(6) 他者との付き合い方 (問12)	98
4. 社会参加	103
(1) 社会貢献への意欲 (問13)	103
5. 将来像	104

(1) 将来への希望 (問 14)	104
(2) ポスト青年期の自己像 (問 15)	105
6. 自身や周囲の状況	112
(1) 自由時間の充足状況 (問 16)	112
(2) 心と身体の状態 (問 17)	113
(3) 個性・多様性・意見を尊重してくれる人の有無 (問 18-1)	115
(4) 個性・多様性・意見を尊重してくれる人 (問 18-2)	119
(5) 周囲の大人の様子 (問 19)	120
7. 困難に直面した経験	121
(1) 困難に直面した経験 (問 20)	121
(2) 経験した困難や悩み事の内容 (問 21 (1) ~ (4))	122
(3) 困難な状態から改善した経験 (問 22)	127
(4) 困難な状態から改善したきっかけ (問 23)	128
8. 相談・支援	130
(1) 相談先に求めること (問 24)	130
(2) 相談したくないと思う理由 (問 25)	132
(3) 育成支援機関等の認知度 (問 26)	134
(4) 育成支援機関等の利用経験 (問 27)	136
(5) 育成支援機関等の利用意向 (問 28)	137

第3部 調査結果の概要Ⅱ

第1章 こども・若者のウェルビーイングに関連した分析

1. 生活満足度と他変数の関連	139
(1) 10歳～14歳対象調査	139
(2) 15歳～39歳対象調査	142
2. 家の暮らし向きと他変数の関連 (15歳～39歳)	146
(1) 15歳～39歳対象調査	146
3. 場の性質及び数と他変数の関連	149
(1) 10歳～14歳対象調査	149
(2) 15歳～39歳対象調査	155
4. 困難や悩み事の数と他変数の関連 (15歳～39歳)	163
(1) 15歳～39歳対象調査	163

第2章 前回調査結果との比較 (「こども大綱」別紙1, 別紙2関連)

1. 「今の自分が好きだ」と思うこども・若者の割合 (別紙1)	173
(1) 10歳～14歳対象調査	173
(2) 15歳～39歳対象調査	174
2. 「自分には自分らしさというものがある」と思うこども・若者の割合 (別紙1)	175
(1) 15歳～39歳対象調査	175
3. 「どこかに助けしてくれる人がいる」と思うこども・若者の割合 (別紙1)	176
(1) 10歳～14歳対象調査	176
(2) 15歳～39歳対象調査	177
4. 「社会生活や日常生活を円滑に送ることができている」と思うこども・若者の割合 (別紙1)	178
(1) 10歳～14歳対象調査	178
(2) 15歳～39歳対象調査	179

5. 「自分の将来について明るい希望がある」と思う子ども・若者の割合（別紙1）	180
（1）10歳～14歳対象調査	180
（2）15歳～39歳対象調査	181
6. 安心できる場所の数が1つ以上ある子ども・若者の割合（別紙2）	182
（1）10歳～14歳対象調査	182
（2）15歳～39歳対象調査	183

第4部 資料編

1. 調査票（単純集計結果付）	
（1）10歳～14歳対象調査票	185
（2）15歳～39歳対象調査票	197
2. 参考表（前回調査結果との比較）	212
（1）10歳～14歳対象調査	212
（2）15歳～39歳対象調査	220